

京都大学文学研究科博士後期課程修了生アンケート集計結果

令和5年3月実施

京都大学文学部・文学研究科では、卒業時・修了時にアンケートを実施し、教育研究活動の自己点検・評価に役立てるとともに、その集計結果を公開しています。博士後期課程修了生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

【結果の概評】

以下、結果の概評に移る。なお、一部項目の結果については2020年度から今年度にかけての推移を示している。その際、括弧内に「〈2020年度の数字〉→〈2021年度の数字〉→〈今年度の数字〉」という形式で記載した。また、選択肢「A」を最高評価として満足度や達成度を問う項目について講評する場合、「A」「B」という上位2つの回答を合わせて〈肯定的な回答〉とみなしている。

今年度は、修了者46名のうち27名から回答を得た。回答率は58.7%である。回答者が27名と少ないため、ある選択肢を1人が選択すると、その選択肢の選択率が3.7%上昇してしまうことに注意したい。

まず、博士後期課程進学を決めた時期を問うQ.2では、学部入学後、4回生になる以前に博士後期課程進学を決めた学生の比率が上昇している一方で(23.1%→11.1%→18.5%)、昨年度同様、約半数の学生が修士課程進学後、修士論文作成以前の段階で博士後期課程への進学を決めたことが見て取れる(38.5%→51.9%→51.9%)。

本学の基本理念である「自学自習」の実現度合いを問うQ.4、研究科への満足度を問うQ.5のいずれにおいても、それぞれ88.9%、96.3%と肯定的な回答が大半を占めた。また、本研究科で学んだこと、身につけたことのうち今後役立つと考えられることを問うQ.7では、例年通り「専門的知識」と「研究能力」が上位を占め、選択率は昨年度より大幅に上昇している(「専門的知識」84.6%→63%→81.5%) (「研究能力」76.9%→70.4%→81.5%)。

一方、博士後期課程のディプロマポリシー達成度を問うQ.9~12においては、研究者としての高度な専門知識、独創性および倫理性の獲得を問う項目では肯定的な回答が大半を占め、本研究科の教育、研究環境が肯定的に評価されていることが伺われるが、研究成果の国際的な発信能力および海外の研究者との連携能力の習得に関する項目は59.2%にとどまっている。これには自由記述でも指摘されているように、コロナ禍での様々な制限が影響していることが考えられるが、改善の余地があると言える。

以上、回答者が少ないため個々の数値の解釈は難しいが、本研究科の教育がその役割を十分に果たしているとは言い得るだろう。

【自由記述欄】

コロナ禍での研究遂行の困難を訴える声、事務面での改善を望む声が寄せられた。

以下、自由記述欄の記載内容をそのまま共有する。

- ・コロナ禍以降、十分な対面授業が実施できなかったにもかかわらず、全学生に対して学費の一部を返還するなどの措置が取られなかったことを、大変遺憾に思います。私は博士後期課程在学中に欧州への留学を計画していましたが、コロナ禍のために断念しました。現在は、必要な資料を収集できないまま、やむをえず自宅で博論の執筆に取り組んでいます。海外で十分な調査研究や資料収集を行えなかった学生に対して、大学側で何らかの救済措置や配慮をしてほしいと思います。（例:「研究指導認定退学後 3 年以内に博論提出」という年限を延長するなど）
- ・博士論文提出に関する情報が非常に集めにくく不親切に思えます。教授が事務的な内容まで対応してくださっているが、第二教務掛がもっと積極的に動くべきではないでしょうか。
- ・一生をかけても入学できないと考えていた大学に入学することが可能になったのは、すごく幸運だった。さらに、在学中に日本学術振興会特別研究員に採用されたことは、人生の頂点だったと考える。私にとって京都大学大学院という場は、そのような評価にある。
- ・自由記述欄と言いながら、字数制限が厳しい。自由は厳しい制約を伴う、という一般論をこのフォームに反映させているのだとしたら、正直それは御免被りたい。

アンケート名 令和4（2022）年度博士後期課程修了者アンケート

部局 文学研究科

対象者数 46

回答者数 27

回答率 58.7

結果 (Q.01) あなたが修士課程を終えた大学についてお聞きます。

- A: 京都大学大学院文学研究科 (21票/77.8%)
- B: 京都大学の他研究科 (1票/3.7%)
- C: 京都大学以外の日本国内の大学 (3票/11.1%)
- D: 日本以外の大学 (2票/7.4%)
- E: その他 (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



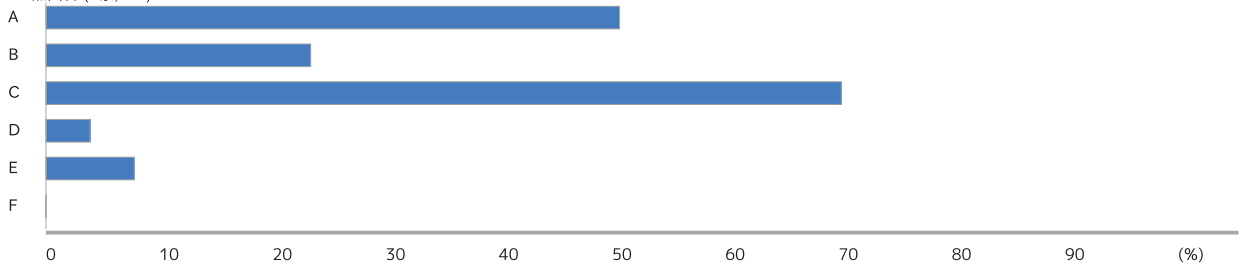
(Q.02) あなたが博士後期課程で学ぶことを決めたのはいつ頃でしたか？

- A: 学部入学後 (5票/18.5%)
- B: 4回生になってから (1票/3.7%)
- C: 修士課程進学後 (14票/51.9%)
- D: 修士論文作成中 (3票/11.1%)
- E: 修士課程修了後、社会に出てから (4票/14.8%)
- F: その他 (0票/0%)
- G: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 博士後期課程で学ぶ動機のなかで重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？（複数回答可）

- A: 修士課程で選んだテーマの研究をより深めたいと思った。(13票/48.1%)
- B: 博士後期課程での研究・教育が思考力の向上に役立つと思った。(6票/22.2%)
- C: 将来、研究・教育職に就くことを希望していた。(18票/66.7%)
- D: 企業等に就職する前に、もう少し学問を続けたいと思った。(1票/3.7%)
- E: その他 (2票/7.4%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学研究科での授業、研究指導について、どのように考えますか？

- A: 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている。(15票/55.6%)
- B: 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている。(9票/33.3%)
- C: どちらとも言えない。(2票/7.4%)
- D: 自学自習の能力が養われるような形で行われていない。(1票/3.7%)
- E: その他 (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.05) あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？

- A: 十分に満足している。(18票/66.7%)
- B: それなりに満足している。(8票/29.6%)
- C: どちらとも言えない。(0票/0%)
- D: 後悔している。(1票/3.7%)
- E: その他 (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)

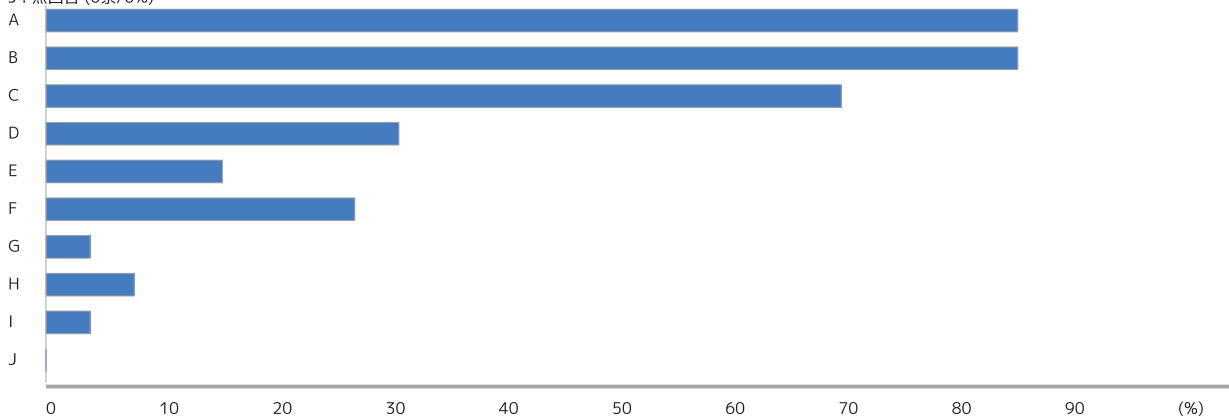


- (Q.06) 4月以降の進路についてお聞きします。
- A: 大学・研究所等の研究（教育）機関に就職 (13票/48.1%)
 - B: 一般企業に就職 (3票/11.1%)
 - C: 官庁、地方自治体等に就職 (0票/0%)
 - D: 教員、司書等の専門職に就職 (0票/0%)
 - E: 日本学術振興会特別研究員 (3票/11.1%)
 - F: 研修員 (0票/0%)
 - G: その他 (1票/3.7%)
 - H: 無回答 (7票/25.9%)



(Q.07) 文学研究科で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものを挙げてください。（複数回答可）

- A: 専門的知識 (22票/81.5%)
- B: 専門分野の研究能力 (22票/81.5%)
- C: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (18票/66.7%)
- D: 一般的な教養 (8票/29.6%)
- E: 国際感覚 (4票/14.8%)
- F: 外国語の能力 (7票/25.9%)
- G: リーダーシップ (1票/3.7%)
- H: 社会的常識 (2票/7.4%)
- I: その他 (1票/3.7%)
- J: 無回答 (0票/0%)



(Q.08) 差し支えなければ、あなたが属していた専攻を教えてください。

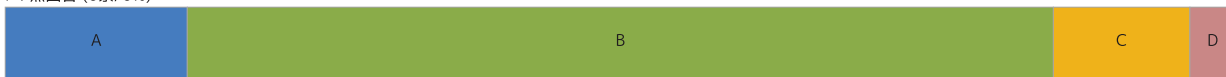
- A: 東洋文献文化学 (4票/14.8%)
- B: 西洋文献文化学 (4票/14.8%)
- C: 思想文化学 (7票/25.9%)
- D: 歴史文化学 (5票/18.5%)
- E: 行動文化学 (7票/25.9%)
- F: 現代文化学 (0票/0%)
- G: 無回答 (0票/0%)



(Q.09) 以下、Q.09からQ.12で、文学研究科のディプロマポリシーに関してお伺いします。以下の項目についてどの程度達成できたか教えて下さい。

哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、専門的研究者として自立できる研究能力と、指導的な高度専門職業人としての能力を身につけている。

- A: 達成できた (4票/14.8%)
- B: ある程度達成できた (19票/70.4%)
- C: どちらとも言えない (3票/11.1%)
- D: あまり達成できなかった (1票/3.7%)
- E: 達成できなかった (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.10) それぞれの専門分野において、原典や一次資料の高度な分析に基づいてオリジナリティの高い研究を進めるとともに、研究の成果と学術的意義を適切に把握する能力を身につけている。

- A: 達成できた (9票/33.3%)
- B: ある程度達成できた (14票/51.9%)
- C: どちらとも言えない (4票/14.8%)
- D: あまり達成できなかった (0票/0%)
- E: 達成できなかった (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.11) 専門家としての強い責任感と高い倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている。

- A: 達成できた (11票/40.7%)
- B: ある程度達成できた (16票/59.3%)
- C: どちらとも言えない (0票/0%)
- D: あまり達成できなかった (0票/0%)
- E: 達成できなかった (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.12) 研究成果を世界に向けて積極的に発信するとともに、国際的な連携のもとで研究を推進する能力を身につけている。

- A: 達成できた (3票/11.1%)
- B: ある程度達成できた (13票/48.1%)
- C: どちらとも言えない (7票/25.9%)
- D: あまり達成できなかった (3票/11.1%)
- E: 達成できなかった (1票/3.7%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.13) その他意見・要望がありましたら、ご自由にお書きください。

●回答無し